

下野市立細谷小学校

1 学校課題

自ら学び、考え、課題解決できる児童の育成 ～少人数学級での個別指導の在り方～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校では、昨年度まで3年間、「主体的・対話的で深い学びの実現を目指して」を研究主題としてきた。また、小規模校のよさを生かし、個々の児童の実態を把握しながら、学力向上に向けた手立てを工夫してきた。しかし、課題として児童間の学び合いや練り上げの難しさが見えてきた。また、昨年度のとちぎっ子学習状況調査では、4年生・5年生ともに問題の読み違えや題意を把握できなかったことによる誤答が見られた。児童は、教師から与えられた課題に意欲的に取り組むことができるが、自ら新しい課題を見つけるなどの、主体性に乏しい実態も見られた。

そこで、教師が一人一人の児童の様子をより把握することができる本校のよさを生かしながら、指導方法や授業内容を研究・改善し、児童の主体性を養いながら確かな学力の定着・向上を図りたいと考えた。石橋中学校区の小学校4校には、昨年度から学力向上推進リーダーが配置され、よりよい授業づくりを中心とした研修を行ってきた。本年度は、教師による授業づくりと授業改善を中心に、学力の向上を図った。

(2) 研究の仮説

教師が授業力や指導技能を高め、児童個々の見取りから習熟状況等を把握し、学習課題の提示に工夫や配慮をすることによって、児童の学習意欲を高め、学力を伸ばすことができるであろう。

3 研究内容

学力向上推進リーダーとの授業づくりを中核としながら、研修により得た学びを通常の授業に生かして「研修の日常化」による授業づくりの質を高めていく。

(1) 研究での主な実践内容

① 教師の授業力・指導技術の向上

- ・ 学力向上推進リーダーとの連携強化による教師の授業力、指導技術の向上

6月より、学力向上推進リーダーと各授業者が毎週研修を実施した。授業のねらいを達成するために、単元計画や本時の授業の展開や教材についても相談・研修してきた。学習指導要領との関連を確認しながら、授業シートを作成して授業を行った。下学年と上学年のブロックに分け、公開授業および授業後の研修を実施した。推進リーダーの助言をまとめた支援記録を校内で回覧し、直接参観できない授業でも、教師が指導技術を互いに学んだ。

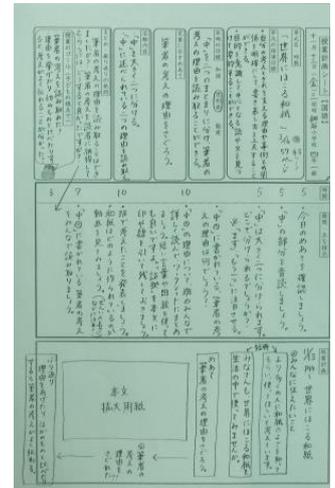
- ・ 学力向上を目指した改善プランの作成と実践、学校課題研究の日常化

学力テストやとちぎっ子学習状況調査等で明らかになった実態をもとに、分かりやすい授業の実践や、授業力向上を目指した。また、学力向上推進リーダーとの研修によって学び得た児童の発言の生かし方や話し合いのさせ方などの指導方法を、日常の単元や授業に取り入れ生かすことにより、授業全体の質が向上できるよう取り組んだ。

② 授業づくり（国語・算数を中心として）

- ・ 教科のねらいを達成し、授業に広がりや深みを増すための教材研究

児童が授業のねらいを達成できるように、教材研究を充実させた。単元の系統性を含めた教材理解、発問の精選、板書計画などに視点を当てて、教材研究を行った。児童の興味や関心を高め、既習事項とのつながりを意識して問題意識をもたせたり、全ての児童に分かりやすいユニバーサルデザインを意識した指導となるよう工夫したりした。また、授業計画段階で、指導事項を明確にするとともに、教科の特質に応じた見方・考え方をどこでどう働かせるか考えたり、そのための教材教具や学習形態を工夫したりして授業に臨むようにした。教師が児童の言



作成した授業シート

葉を繋ぎ交流させながら対話的な学びができるよう努めた。

- ・ 問題文を正しく読み題意を把握できる力を養う支援

算数の文章読解を伴う学習課題では、課題解決の流れを全教室に掲示し、分かっていることや何を求めたらよいのかななどを明らかにした。また、具体物の操作や動作化、絵、図などで数量関係を押さえ、問題場面を具体的にイメージさせるよう全校で取り組んだ。

③ 児童の好ましい読書習慣の形成

- ・ 正しく読む力を身に付けるためのねらいに即した読書指導、読書習慣の形成

朝や業間に読書時間を確保し、児童が落ち着いて読書できるようにした。また国語と関連した図書を教室に置き活用する場面を意図的に設定することで、学習内容を広げたり深めたりできるようにした。図書委員会の活動や読書記録の掲示物作成、児童の読書記録に校長から励ましのメッセージを添えて返すなどして、意欲喚起を図った。

(2) 公開授業・学力向上推進リーダーとの授業研修を通じた主題への取組

○ 4年生国語「世界にはほころ和紙」(全学年公開)

児童による自己解決や学び合いをねらいとして意図的にグループを作り課題解決させた。児童が叙述に即して読み取れるように、授業者が教材文を打ち直し、文章全体を把握しやすいようにした。グループ学習では、読み取ったことを伝え合いながら、図や文にまとめさせた。児童の考えを交流する際はタブレットを活用し、その場で画面に写して見合うことで理解の深まりをねらった。和紙のよさや筆者の意図を読み取ろうとする意欲的な姿が多くの子に見られた。



公開授業の様子(4年生)

○ 3年生算数「分数」(下学年公開)

同じ2分の1でも、何を1とするかによって、実際の大きさが異なることを発見・理解することをねらいとした。単元計画段階から、児童に数量的な感覚を伴って理解させるために、指導計画を見直して、授業の内容を入れ替えて実施した。本時は、ユニバーサルデザインを意識した板書やワークシートを工夫することで、児童にとって分かりやすく、自分の思考過程や分数が表す量を実感できるようにした。



公開授業の様子(3年生)

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ① 学力向上推進リーダーの助言を生かし、児童全員が主体的に取り組み、達成感がもてるよう授業づくりの段階から意識することができた。また、普段の授業においても学習指導要領との関連を意識し、教師個々の指導力、授業力の向上を図ることができた。
- ② 教師個々のICT活用技能が向上し、タブレットなどを活用して児童からより多くの意見を取り上げることができた。そのため児童の学ぶ意欲が向上したり、友達の考えのよいところを自分の考えに生かせるようになったりする様子が見られた。
- ③ 図書支援員と連携しながら、読書指導と関連付けた指導を行うことができた。特に、国語科では単元における言語活動と関連した図書を教室に置き、活用を図ることができた。1人1冊以上の図書を確保したことで、より個の興味・関心に応じた活動を行うことができた。

(2) 課題

- ① 児童に思考・判断・表現を問う場面では、児童同士で考えを高め合わせるための教師の「発言をつなぐ」コーディネート技術や、児童自身に文章から題意を読み取り考える力を伸ばすための支援の手立てをさらに工夫したい。
- ② 全ての児童に意欲的に学習に取り組ませるための児童理解や集団づくり(学業指導)をさらに充実させたい。
- ③ 研修内容を通常の授業改善にどう役立てていくか。教師自身の意識の変容と高揚を目指すとともに、日頃から教師同士が学び合える雰囲気づくりに努めたい。